

## 1 令和5年度教育の実施報告

<補足説明：新カリキュラムについて>

昨年度の教育活動では、5月にコロナが5類へ移行となり、ほぼ通常の教育活動となった。

新カリキュラム運用2年目となり、2年次では新カリキュラムにおける強化点であった臨床判断力育成のための各専門のシミュレーション演習が開始となった。その成果は今年度3年次の実習で評価して参りたい。

臨地実習は、一部実習受入れ中止要請も受けたが、概ね計画通りに実施することができた。

2年次では、新カリ初の保育所実習や手術室見学実習を含めた成人実習が開始となった。

2年間ほぼ学内実習となった3年次生の実習開始に当たり、教員間の目標の擦り合わせはもちろん、実習の打合せなどで臨地の指導者にも学生の状況をご理解頂きながら進めてきた。

(委員からの質問)

基礎実習Ⅱが5月、基礎実習Ⅲが7月に実施しているが、5月から7月と期間が短いためどのような実習展開なのか。

また、時期が近いことは学生にとって緊張感があまりなく臨めるなど、効果的だったのか。

(学院からの回答)

基礎実習Ⅱは、コミュニケーションと生活援助を通して患者のニーズを理解する実習で基礎実習Ⅲがはじめての看護過程展開実習である。

1年次の基礎実習Ⅰの後、2年次の基礎実習Ⅱまでが1年近く期間が開くため、非常に緊張度が高い中で実習に行くが、基礎実習Ⅲまでは3週間程度なので実習の雰囲気はわかりスムーズに進んだ状況があった。

2年次は、4月から成人看護学の事例展開演習が始まりバツツの患者事例で展開する。

演習でアセスメントを進めながら基礎実習Ⅱに入るため、基礎実習Ⅱでは受持ち患者の日常生活援助の必要性を考える実習体験になり、基礎実習Ⅱの終了後の成人演習では患者事例のプランが立つ状況になる。そして、術後の観察場面のシミュレーション演習を体験して基礎実習Ⅲにつなげている。

この時期、学生にとっては多重課題となるが、シミュレーション演習で看護実践のイメージがいたり、成人実習に行った時に、基礎実習Ⅲのアセスメントと術後の観察場面のシミュレーションのつながりや術後の患者の回復過程のイメージが広がるなど、リンクしてくる状況があり効果的だった。

(委員からの質問)

成人実習のⅠとⅡではシャドウ実習と看護過程の展開をどう組み立てているのか。

(学院からの回答)

成人実習Ⅰは、1週目に手術室見学実習1日とシャドウ実習を3日組んでいる。

これまで学生たちは周手術期看護の中で手術中の看護のイメージがもてないまま術前と術後の看

護を分断する形で考えていた。患者がどのような状態で手術を受けているか見ることで術後の生体反応の意味や継続看護の視点が理解できた。

また、手術室で働きたいという気持ちになった学生もいた。

(委員からの意見)

1週間シャドウ実習というのは長すぎではないか。2日程度でも良いのではないか。

(学院からの回答・質問)

年次と時期にもよるが、2日でも良いのかもしれない。

4日間のうち1日ずつローテーションして手術室見学を組んでいる関係上、成人実習Ⅰの1週目4日間のうち残り3日をシャドウ実習とした。

2年生にとっては看護師が患者の何をみてどう判断し、どうケアにつなげているのか、見て学ぶことができ、学生からの評価も高いため、この形態は継続したい。

しかし、昨年の3年生はコロナ禍で実習ができなかったことを踏まえ、1週目にシャドウ実習を組んだが、受け持ち患者の看護に責任を持つという構えが甘くなる様子もあり、今年度の3年生は新カリキュラムであることも踏まえ、実施していない。シャドウ実習のねらいをどこに置くか。年次と実習時期によっても違う。

2年間実習ができず、3年次の実習体験だけで卒業した卒業生が現在新入職員として勤務しているが勤務状況はどうか。

(委員からの回答)

4月、5月とまだ2か月間なので必死な感じで、やっと2人か部署によって3人くらいの患者を受け持っているくらい。全体的に今年の新人は物おじせずコミュニケーションがとれるという印象を各部署の科長が持っているようだ。

(学院からの質問)

新カリキュラムから実習時間の考え方が柔軟になり、1時間を45分計算で組むことも可能となったが、45分で組んで実習期間を短縮させているのかどうか。学生の学びに変化があるのか。

(委員からの回答)

1時間を45分計算で実習を組むように変更したので、2単位90時間でも10日くらいで終わる。その代わりに、学内で振り返り整理する時間に教員は力を入れている。

すごく点数が悪くなったということはなく、アセスメントや実践ができないということもなく、学生の方が焦って色々頑張る状況。入院期間が短くても次々新しい患者を受け持つのではなく、一事例を丁寧に見られる。

次々患者を持つと一人目の患者の看護を振り返るより次の患者に学生の目がいってしまい、中途半端になる。1週間終わったあとの土日が貴重で残り1週間で実習が終わるとなると学生たちはすごく学習してくる。

(学院からの回答・質問)

現場での実習体験を減らすことへの躊躇と現場に出ている方がよいと考え、1週間はシャドウ実習、その後の2週間で受け持ち患者をもつことにした。

シャドウ実習で看護活動を知ること、実際看護師がどのような動きをしているのか。

また、看護師との関係性が作りやすくなるので相談しやすくなるというメリットもあるかとは思いますが、ねらいをどこに置き、目的意識をどうもつかによってよし悪しだと感じる。

体験していることの意味を整理していくことが難しくなってきた学生の状況がある。

どのように実習体験を振り返り意味づけられるよう支援しているのか。

(委員からの回答)

実習と講義の進度の調整をしている。この実習を終えてからこの講義、この講義のあとにこの実習というように学生が気づくことは難しいことが多い。

センスの良い学生もいるが、学生が気づくことは考えず、こちらの思考を伝える。

現場の指導者にもなぜそう考えたのか、なぜそう行動したのか、全部伝えてください、指導者の頭の中を見せていただければいいです、と全部思考発話することをお願いしている。

教育の仕方は随分変わっていて、「なぜ？」と聞かなくなった。

たまに聞くこともあるが、考え方を教えてもらいお互いの思考を合わせるため、シャドウ実習だけで終わるのは勿体ない。

なにか一場面だけでもなぜあそこで何をしたのか、少しでも伝えてくれるだけで「このように考えていくのだ」という考え方を学生が少しずつわかっていく。そこから学生が気づいてきている。

(委員からの意見)

現場のリーダーたちにそれができているか心配。

学生との向き合い方やスタンスがまだ変わっていない気がする。

そこがリーダーの課題になってくるのではないか。

現場ではリフレクションもできていないのではないかという気がする。今、リフレクションを学んでいる状況である。

(学院からの意見)

学生が患者に説明して同意を得る場面を教員が同席しているが、そこで見て感じてくるものも随分違う。

学生は、緊張状態で患者のベッドサイドに行くから初日のファーストコンタクトの場面も大事。

指導者が患者について感じていることを語ってくれるだけでも(どんな方なのか)学生にとってはその後の患者との関係づくりにつながる。

今までは「ほうれんそう(報告連絡相談)」と言われてきたが今は「雑相(雑談の雑)」。話せる環境なくして相談はできないという考え方。

(委員からの意見・質問)

報告を受けて不足を伝えたりする過程で相談行動につながる、気づくことにつながる、と考えるが

相談できる環境をつくってから・・・となると患者に目が向かなくなることはないのか。

(学院からの回答)

相談しやすい環境づくりと患者にとって、という思考をどう自分で広げ、深めていくか、そのシフトチェンジとバランスが大切だと考えている。